令和5年度

脇町小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

ポジティブな行動支援の考え方を
取り入れた教育活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福嶋理絵	**委員** 校長：大塚一志，教頭：重本浩孝， 主幹教諭・高学年：松田享子，教務主任：高木良則 研修主任・特別支援：宮本桂子，低学年：四宮ゆみ， 中学年：永見由美，通級：藤田駿介（濱田なるみ）

校長
大塚　一志　印

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

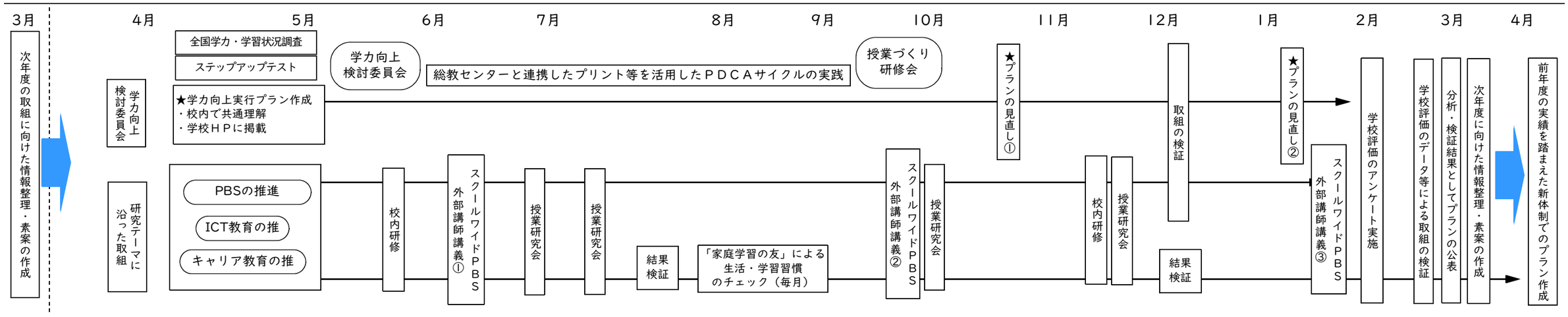
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○めあての明確化や振り返りの時間を設けたことにより，次時への学習意欲や習熟度を上げることができた。 ●ドリル学習を継続的に行うことにより，発展的な課題に挑戦する児童が増えた一方で，知識・技能の定着が図れていない児童もいる。	○課題に進んで取り組み，基礎的・基本的な知識・技能が確実に身についている。 ・国語・・・考えたことを文章に書く。 ・算数・・・学年に応じた計算力。	①ドリルタイムでは，各学年で購入した漢字や計算のドリル，総合教育センターと連携したプリント等を活用する。 ②めあてを明確にして授業の見通しを持たせ，肯定的な振り返りの時間を設ける。 ③「ゴール問題」を設定して，できた児童を確認する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○視覚支援やグループ・ワークを継続して取り入れたことにより，友達の考えから学習を広めたりまとめたりすることが身につき，発展的な課題に挑戦する児童も増えた。 ●互いに学び合い思考を深め合うまでには至っていない。	○進んで自分の考えを発表したり，友達の考えと比較したりすることにより，自分の思考を深めることができる。	①具体物の操作やホワイトボードの活用，ICT機器の活用等により視覚支援を行い考察や表現をしやすくさせる。 ②自分の考えを深めるため，一人学習からの学び合いの場（ペア・班学習）を効果的に設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ PBS の手法により，意欲的に課題に取り組んだり，相手を見て話を聞いたりできる児童が増えた。 ●友達の意見から，自らの考えを振り返って発表をつなげたり，話し合いを深めたりする児童が，まだ少ない。	○これまでに学習した話し方や聞き方を，次の学習や生活の中で活用しようとしている。	①ポジティブな行動支援の手法について計画的に研修を行い，児童が学習に主体的に取り組むようになる声かけやほめ方を研究する。 ②望ましい話し方，聞き方について掲示し，意識させる。			

令和5年度　学力向上ロードマップ